

権利擁護／虐待防止

事例検討編②

②「顕在化」している虐待行為」と「潜在化している虐待行為」

この教材のねらい

今回、配信する教材はある一つの事例を使って、さまざまな視点から考えて「虐待行為」について理解を深めていくものである。

この教材は、顕在化している虐待行為の背景には潜在化している虐待行為があることに気がつくことをねらいとする。

事例(ある職員Aが受けた説明)

Aさんはパートとして週に4日特別養護老人ホームで働くことになりました。主に認知症の人が入居しているフロアで、入浴介助と昼食の食事介助が主な業務です。このフロアでは、新卒の若いスタッフと年配のベテランのスタッフが半々くらいの割合で働いています。

食堂で利用者の食事介助をしました。その時にこちらを向いて食事をしている車イスのBさんがいました。Bさんの斜め前にはベテランスタッフのCさんがBさんの様子も見ながら、他の利用者の食事介護をしています。Bさんは自力摂取で食事をしていました。Bさんは食堂の壁を背にして座っています。よく見てみると、Bさんのすぐ後ろに壁があるように感じました。

近くの新人スタッフのDさんに尋ねると、「Bさんはすぐに車イスから立ち上がろうとするので、テーブルで立ち上がれないように押さえているんです。前に車イスから立ち上がろうとして転倒したことがあって、家族からは立ち上がれないようにしてくださいと頼まれています」ということでした。それで、車イスで後ろに下がろうとしてもすぐに壁にぶつかって動けないようにしてあるんだと理解できました。

事例(続き)

居室ではどうしているのかDさんに尋ねると、「うん、Bさんの部屋はナースセンターの真向かいの部屋なんですけど、すぐに動いたかどうかがわかるように掛け布団の足元やくつに鈴を付けているんです。鈴の音が聞こえたら、大急ぎでBさんの部屋に向かいます。本当はセンサーマットか何かがあればいいんだけど、今は他の人に使われちゃっているんで、鈴で対応しています。

Bさんが動こうとしたようです。ベテランスタッフのCさんの「ちょっと待ってて、まだこっちのご飯が終わってないから。もうちょっとで終わるから、それまで待ってて。終わったら、テーブルをどかしてあげるから。待っててって。だから、終わったらどかしてあげるからって言うてるでしょ！」という大きな声が聞こえてきました。

個人ワーク(10分)

職員 Cさんはどのような虐待をしたと
思いますか？

職員Cさんがしたと思われる虐待行為について、整理しましょう。

1)「顕在化している虐待行為」は
何だと思いますか？

2)「潜在化している虐待行為」は
何だと思いますか？

グループワーク(10分)

3)この事例から、見えない虐待行為について話し合ってみましょう。

個人ワーク(10分)

4) ワークシートに「潜在化している」虐待行為を記入しましょう。

この教材を終えるにあたって

虐待行為は、個々の職員の意識と職員間のコミュニケーション不足が増えていく過程の中で起きていくものだと考えられます。

「忙しいから仕方がない」とするのではなく、「忙しい時はどうすればよいのか」と日頃からみんなで考えておくことが、虐待行為の防止につながることをしっかりと認識しなければなりません。

お疲れさまでした。

教材作成

北海道総合福祉研究センター
理事長 五十嵐教行